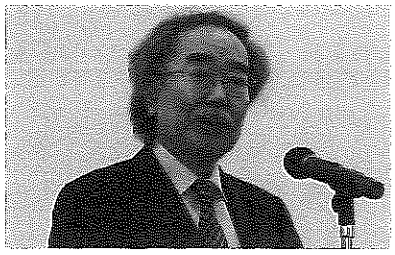
ふくせん・FJC協会共催で「福祉用具の日」記念イベントを開催

10月1日は「福祉用具の日」です。今年も国際福祉機器展（HCR）の開催に合わせ、10月3日に全国福祉用具専門相談員協会（ふくせん）との共催で「福祉用具の日」記念イベントを開催しました。ビッグサイト内にある会場には多くの方が集まり、厚生労働省老健局振興課福祉用具・住宅改修指導官・介護支援専門官の東祐二氏による「福祉用具、住宅改修の現状と介護保険制度改正の方向性」をテーマにした記念講演と、福祉用具専門相談員実力ランキングテスト総合ランキング上位入賞者の表彰式が行われました。



開会あいさつをする竹下隆夫会長。地域包括ケアシステムの構築には福祉住環境整備や福祉用具が重要な役割を果たすと指摘し、協会として「わが国の介護福祉を支える人材育成に大きな役割を果たしてまいりたい」と述べた。

岩元文雄・全国福祉用具専門相談員協会理事長は、「これからの社会を支えるのは福祉住環境整備であり、福祉用具の活用です。われわれ専門職に対する期待はますます大きくなっていると感じています」とあいさつした。

福祉用具専門相談員実力ランキングテスト総合ランキング上位入賞者表彰式

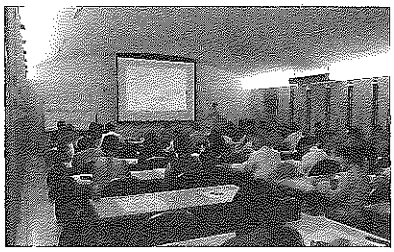
実力ランキングテストは、知識や豊富な経験を持つ福祉用具専門相談員の実力を正当に評価し、公の場に示す絶好の機会として設けられています。今回は、上位者4名が表彰されました。第1位を受賞した株式会社ヤマシタコーポレーションの萩原絢子（はぎわらあやこ）さんのコメントを紹介します。

「業務の中で疑問点や不明点が出たら、すぐに調べるようにしています。またできるだけ展示会等に足を運んで、実際にどのご利用者に適合しそうか、具体的な案件と結びつけて商品を見て体験することを心がけています。自分が培ってきた知識についてランキングテストを受けることで自信を持てるようになり、利用者やケアマネジャーにも自信を持って商品提案や使い方を説明できるようになりました」

記念講演

「福祉用具、住宅改修の現状と介護保険制度改正の方向性」

厚生労働省老健局振興課
福祉用具・住宅改修指導官 介護支援専門官
東 祐二氏



【要旨】

■在宅生活を支える福祉機器・住環境整備

高齢者は、廃用性や体の不調などをきっかけにして、できなくなることが増え、喪失体験の連続により生活意欲が低下してきます。自らの力で生活し続けることができるという自信を持てるように支援することが必要。ここが専門職のプロたるゆえんであり、出番です。利用者の「できること」、「できないこと」、「できそうなこと」を見極め、「できそうなこと」について今後の可能性を十分に検討しましょう。自らの能力を最大限発揮できるには、生活環境の改善が有効です。福祉機器等の活用や住環境の整備と、人的な支援によるサポートを組み合わせることにより効果的な自立支援が促進されます。

■介護保険制度における住宅改修の範囲の考え方

居宅介護住宅改修費は、個人資産の形成につながる面があり、持ち家の居住者と借家の居住者との受益均衡を考慮すれば、支給限度額も小規模なものとならざるを得ません。住宅改修の種類は、多様な居宅の状況に応じて必要な改修を柔軟に組み合わせて行うことができるような工事種別を包括できる設定とすること。環境を整備することにより、単に家の中で自立するためだけでなく、利用者の生活課題を解決することがポイントです。

■福祉用具貸与・販売の流れについて

福祉用具のサービス計画は、利用目標を達成するため、本人や家族の思い、心身機能、環境情報、医療情報等、いろいろな情報をアセスメントとしたうえで立て、説明と同意を経てサービス提供を開始します。こういったスキームを実践するには、アセスメント能力、マネジメント能力が必要。福祉用具専門相談員等が福祉用具という有効なツールを活かすには実力をつけることが大切です。